

令和 7 年 6 月 9 日 開 会

令和 7 年度第 3 回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和7年度 第3回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和7年6月9日(月)	教 育 長 明 石 浩 久	教育総務課長 小 池 康 之
午後2時	教 育 委 員 吉 富 和 夫	学校教育課長 川 崎 史 明
↓		
午後3時50分	教 育 委 員 葛 迫 幸 平	社会教育課長 大 迫 隆 男
第2研修室	教 育 委 員 田之上 厚美	書記
	教 育 委 員 福 里 由 加	社会教育課課長補佐 山 下 明 文

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和7年度第3回教育委員会定例会を開会した。

2 前回会議録の承認について

令和7年度第2回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議 事

報告第15号 令和7年度垂水市一般会計補正予算(第1号)案についての市長への意見申出について

報告第16号 垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について

4 その他

「教育委員会の事務の点検・評価について」令和6年度の重点施策の推進状況の自己点検について(報告)

5 動議の討論等

6 委員並びに教育長及び課長報告

7 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
報告第 15 号 令和 7 年度垂水市一般会計補正予算（第 1 号）案についての市長への意見申出について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づき、市長から教育委員会の意見を求められたが、急施を要したため、教育長の臨時代理により意見の申出を行ったことを報告するもの。	特記事項なし	承認
報告第 16 号 垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。	特記事項なし	承認

議 事 内 容 等

3 議 事	報告第 15 号 令和7年度垂水市一般会計補正予算(第1号)案についての市長への意見申出について (資料に沿って説明)
教育総務課長	
田之上委員	小学校施設整備費の水之上小学校教室複式化修繕ですが、黒板を教室の前後に取り付けたりでしょうか。
教育総務課長	黒板については、通常、教室前方に1枚設置されておりますが、複式学級教室とするため、教室後方に黒板を新たに設置する必要があります。それに伴い、後方のかばん棚を撤去するため、教室横に新たにかばん棚を設置します。併せて、黒板用の照明の設置、電源の新設等の修繕を行います。
	(承認)
	報告第 16 号 垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について (資料に沿って説明)
学校教育課長	
	(承認)

4 その他	「教育委員会の事務の点検・評価について」令和6年度の重点施策の推進状況の自己点検について(報告)
教育総務課長	(資料に沿って説明) ・外部評価委員会の設置目的及び評価方法について ・教育委員の活動状況について ・教育総務課の自己点検について
田之上委員	垂水高校振興支援計画の推進ですが、自己評価3ですが、これまでも、垂水高校に対しては、ものすごい支援をしていると思うのですが、もうちょっと上がってもいいのかなと、個人的に思います。
教育総務課長	田之上委員からありましたように、毎年度、補助予算として1,000万円予算化し支援しております。併せて、人的な協力も含めて支援を行っております。ただ、生徒数の増というところでは、結果として足りないかなというところで、自己評価3としたところです。
学校教育課長	(資料に沿って説明) ・学校教育課の自己点検について
吉富委員	本市はGIGAスクールとして、ICT教育が充実しているところですが、どうしてGIGA スクールが進められるのかっていうのを考えてみました。それは、非常に学校が落ち着いていからだと思います。生徒指導の充実が、勉学にうまく向きやすい環境・土壌ができていると思います。結果、学力向上にも期待できると思います。
福里委員	英語教育の充実ですが、英検を受ける生徒が中学校のだいたい半分ぐらいということなのですが、あまりこの重要性を感じてない方もいるように感じます。英検2級や3級を持っていると、大学受験に向けて有利になるかと思いますので、保護者も生徒も英検の級を取得しておけばよかったと思う方もいるようです。子どもには学校で話をしていると思いますが、保護者にはチラシで周知されていますが、なかなか英検の必要性があまり認知されていないところがあると思われます。PTAをはじめ、英検取得の重要性や補助制度について発信し、受験を促す必要があると思いました。
学校教育課長	すごく大事ことだと思います。これまで、補助が年に1回しか使えないということで、ある程度自信を持ってからしか受験しないという子どもたちもいたのですが、最近、英検協会も変わってきており、第1回目に受付のお手伝いをしたのですが、そのとき聞いたところでは、今年から、例えば3級を受験し残念ながら不合格になった場合でも、お金を払わなくても、2回目を受けられるなど、再チャレンジの仕組みができています。そのことから、できるだけ早いうちから申し込みをして、チャレンジすること、再チャレンジの仕組みがあるということを含めて、もっと周知をしていかなければと、改めて、今のお話をお伺いしながら感じたところでございます。 なお、今年度の1回目ですが、中学校卒業程度の3級を受験する2年生や3年

	生の子どもたちが、非常に多かったところです。子どもたちの意欲も、だんだん高まってきていると感じたところです。
福里委員	3級となるとプレッシャーに感じるだろうなと思うので、ある程度力をつけてからという方は多いと思われます。そのため、遅くなってしまうりとかすることが多いと思われるので、再チャレンジの制度があれば受験者も増えるかもですね。
社会教育課長	(資料に沿って説明) ・社会教育課の自己点検について
吉富委員	社会教育の各部門について、充実しているのを改めて知ったのですが、社会教育課の人員不足はないのでしょうか。
社会教育課長	イベント等につきまして、例えば、市民体育祭が、現在は市民スポーツフェスティバルとし、体を動かすことを楽しむような大会に変え、子ども会大会と同日開催にしたり工夫しながら取り組んでいるところです。 合宿対応につきましても、相手方が本市をいい場所だと思って選んでいただいているところであり、観光課等とも連携しながら進められればと考えております。
吉富委員	家庭教育についてですが、スマホタブレットゲームとの7つのルールが浸透していると思いますが、やはりこれは、不登校(登校渋り)ともリンクするところもあるかと思われます。児童生徒の基本的な生活習慣の確立、これは家庭と学校、連動していくところになると思います。季節的に日が長くなり、帰宅時間の確認を早めにしていく必要があるかなと思っております。連絡説明として、各学校での指導や生活のしおりを配布して帰宅の時刻を明記して対策を行っていくような感じかと思えます。夏休み等の長期休業以外では、家庭も学校も帰宅時刻に意識が少なくなかなと思っております。友達と外で遊んだり、家に集まってゲームしているなど多いと思われます。 このスマホやパソコンゲーム機の利用について、友人等のメールやSNS利用も含めて、これを遊びの一環としてとらえて、帰宅時間に合わせて、その利用も終了とすればベストかなと思います。帰宅後は、すべてのゲームやスマホも含めて終了とし、家の手伝い、宅習、夕食、次の日の準備等に充てていくという意識を持っていければいいかなと思います。やはり健全な基本的な生活習慣の確立を、どの家庭にも意識させることが大事だと思います。 ゲームやスマホの利用時間は時間の制限ではなくて、私が提案したいのは、日没までというようにした方が各家庭でも指導がしやすいと思っております。
社会教育課長	スマホの7つのルールのポスターにつきましては、PTA連絡協議会が、令和2年度に作成しており、今年度、新たに作成予定です。その作成の際に、学校と連携して、内容を見直したいと思っております。
学校教育課長	私も垂水市に来たときに、7つのルールがすごくわかりやすいと思っておりました。それともう1つは、確か中学校の生徒会が中心となって3ヶ条みたいなのを決めているんですね。それがきちんと載っているのは非常にいいのかなというふうに思いました。今年度改定するにあたって、もう少しこうすればいいのかなというの、家庭内で子どもと保護者が話をして、両方が納得した上で、決め事を作る、7

	つのうちの1つにするのか、7つにプラス1にするのか検討かと思います。そこで親子で会話をし、「これ守ろうね」というのを、「僕これだったらできそうな気がする。」というようなことを、1つでもいいから、親子で書き込めるようなことをしてみたらいいのかなと思っていますところ。
葛迫委員	スマホの7つのルールของโปสเตอร์の作成についてですが、子どもたち自ら作成するようにすると、ルールをみんな守ろうという方に向かうのかなと思うのですが。学校でโปสเตอร์を作るといふのはいかがでしょうか。
社会教育課長	子どもたちへの「さわやかあいさつ運動」の標語みたいな形もあります。今回そこまでできるかわかりませんが、参考にさせていただきます。
葛迫委員	学校、クラス別で、一人一人が意見を出し合い、キャッチフレーズ等、自分らで考えて、作っていけば、もっとみんながそっちの方に目を向けていくのかなと思います。クラス単位や学年ごとに、非常に面白いのができて、いいのかなというふうに、今感じたところでした。
教育長	学校教育課長からあつたように、7つのルールの1つを完全に空欄にして親子で話をし決定する等、これからまだ検討していただければと思います。
福里委員	โปสเตอร์は今 A4 版番ぐらいの大きさですかね。
社会教育課長	A3サイズになるかと思います。
福里委員	子どもが持ち帰るのは A4サイズです。それがもうちょっと大きかったと思います。結局それが他のプリントにまぎれてしまいます。
社会教育課長	あまり大きくなるとみんな貼れなかつたりするので、適切なサイズに調整したいと思います。
教育長	A4サイズをもうちょっと大きくできないかなという要望でしたが、冷蔵庫にマグネットで貼れる程度にお願いします。
吉富委員	人権教育の推進について、お母さん方は、毎日、子どもから親の世話等、家庭のことに時間を費やされて、自分の時間がないという状況があります。また、経済的理由でお仕事を頑張っておられます。母親休業や家事休業といった形で、女性を守っていくという、意識を高められないかなというふうに考えたところでは。例えば、母の日、父の日、敬老の日、子どもの日等があり、お母さんいつもありがとうと感謝を述べる日がありますが、感謝の気持ちがあるならば、1つでも実行する。また、欧米にはティーチャーズデイという「先生の日」というのがございます。その日は先生に感謝の意を込めて、いろんな形で行われます。やはり、ありがとうという気持ちの中で育った子どもが大きくなって、そういう社会を作っていく、背負っていくのかなと思っています。また人権教育においても、そのあたり、具体的にはこんなことですよと、簡単なことから、クローズアップして実行できるような、お声掛け、お話ししていければなというふうに考えております。

5 動議の討 論等	
福里委員	今年度から中学校が定期テストの順番は出しませんと、メールが届いたのですが、これは、一般的なことなのでしょうか。上位の子は、順番がつかなくても勉強すると思うのですが、下位の子は、順番がつかなくなったら、ますます勉強しないのではないのかなと思ってしまいます。 メール文を読み上げます。 「本年度からテストの成績表に、学年順位を載せないことといたしました。これは子どもたちの一人一人の頑張りや成長を、大切にしようという考えからの変更です。これまで順位表示はどうしても周りの誰より上か下かという、他人との比べあいに繋がる面がありました。そうした比較は、自分はだめだ、どうせ頑張っても意味がないといった、気持ちを生みやすく、子どものやる気や自信を失わせてしまうこともあります。私たちはすべての子どもが安心して学び、自分の力を伸ばしていける学校を目指したいと考えています。また現代社会では、絶対評価が大切にされています。これは、みんなと比べてどうかではなく、その子がどれだけ学べたか。目標にどこまで近づいたかを見て評価するものです。一人ひとりの学びの過程や成長の様子をしっかりと見つめることで、子ども自身が次の目標に向かって前向きに進んでいけるようにしていきたいと考えています。」 このような対応が一般的なことなのか。
教育長	学年の順位は出しませんとありますが、学級の順位はどうなのでしょう。
福里委員	そこは不明ですが、頑張らないといけないという子は、どうなのかなと思ったところです。何の説明もなくこのメールが届いたので、保護者が戸惑っている感じはあります。
学校教育課長	今、その話を伺って、小学校は、学年順位とか学級順位という、順位つけをするようなものは出してないです。中学校は、これまで鹿児島県では、ほとんど出していたような気がいたします。 自分の子どもたちのときには、やはり出されたと思います。何のために出したのかと考えたときに、親の立場としては、高校を選択するときに、この学校で、これ位だったら、ここは難しいかもねとか、そういう、先を見据えたときの判定基準として、利用をしているようでした。 ただ、聞くところによると、順位が3上がった、4下がったなど、そういうので、保護者の方が、一喜一憂されて、数字だけで判断するようなご家庭も多くて、子どもの中には、そのことで、やる気を失ってしまうこともあります。 今のメール文だけだと、そこら辺の真意が、なかなかこう伝わってこない気がします。「そうすることによる効果」あるいは「保護者の方々に、こういうところに気をつけてくださいね。」などと文章が添えてあると、受け取り方としては違ったのかなと思います。
教育長	少しやっぱり説明が足りないというか、急に変えるのであれば、きちんと説明を必要かもしれないですね。もっとしっかりお話をして、保護者にもお示しする必要があるのかもしれないですね。中学校にも、保護者の方々に、もう少し詳しい説

	明を促す話をする必要がありますね。
葛迫委員	親としては、どの位置にいるのか知らない不安なのではないでしょうか。
福里委員	そうですね。メールを見れば、親から言われている感じではなく、友達と比べてと思ったのですが、その評定平均で進学できる学校を考えるということもありますし、推薦も含めて、この高校は受けられませんなど、後で言われるのではないかなど、不安になると思います。
教育長	以前は、生徒同士で順位を聞くようなことはなかったのですが、最近それが、何点だったという会話が飛んでおり、びっくりした経緯があります。友達同士では、しなかったですね。親しい人は別でしょうが。色々な意味で、課題が学校に内在しているかもしれません。
6 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
福里委員	5月14日に行われた垂水市就学指導担当者会に、主任が参加しました。垂水市の保育園や子ども園の状況の報告があったそうです。園で困っているのは、今の園児・子どもたちは集団行動に適用できない、姿勢保持ができない、人の話が聞けない、相手の気持ちがわからないなど、いろいろ出たそうです。学校に行ったときに困らないように、うちの幼稚園でもいろいろ気をつけていますが、保護者の状況としては、生活習慣、生活面よりも、学習に力を入れている方が多いので、なかなか伝わらないところもあります。 5月25日は垂水小学校の運動会に行きました。うちの息子たちが低学年のときに5月開催で運動会がありました。その時に、低学年の児童を見て、これぐらいできるって、やっぱり小学生すごいなと思ったのですが、高学年のことを考えると、2学期開催の方が、出来栄としては、すごくいいのかなというふうに思いました。音響のトラブルがあり、子どもたちが、かわいそうだなと感じました。予行練習で、気づかなかったのかなと言われている方もいて、多分されてないと思うのですが、予行練習が雨だったので、なかなかそこまでは気が回らなかったのでしょうか。これまでも、垂水小学校では音響のトラブルがみられ、6年生のソーラン節のときも音響トラブルがあったので、気をつけてもらえたらと思いました。 6月8日はSOSの受けとめ方講演会に参加しました。今回のテーマは子育てのイライラ対処法でした。子どもが高校生になって、毎日親子ともにイライラすることが多くて、今の私にとって適時の内容でした。先生のお話が本当に身近で、こうするといいいよという内容がたくさんあって、聞いているいと心がとても軽くなりました。子どもの困りごとなのに、子ども以上に心配してしまうことが、私自身も多いので、子育ての中で心配ばかりの連続で、相談されても、つい、アドバイスをしがちです。一度は息子が小学生のときに、ただ聞いてほしいだけだった。お母さんに話をするとか心配するからと言われたことがあります。そんな息子に言われたおかげで、はっと気づけたこともありました。高校の先生からも、子どもたちを信じてあげてくださいという言葉が、PTAでの話でもありました。また、性格は変えられないけど、振る舞いは変えることができるというふうになり、私も振る舞いを変えていこう

	と思います。毎年感じるのですが、子育て世代の方の参加が少ないなと思って、来ればすごくいい内容だったのになと思って、ぜひ子育て世代に聞いてほしいと思いました。
教育長	園児はやっぱり大分ここ最近変わってきましたか。集団行動に馴染めないとか、なかなかきちんと聞けないとか、そんな子が増えてきているのでしょうか。
福里委員	自分の思いなど、やりとりがうまくいかなかったり、興味のあることは、しゃべれるのですが、会話ができないという子もいたり、勉強に重きを置いている方が、早いうちから塾に行かせたりとかします。また、早寝早起きをしっかりと生活習慣、姿勢保持ができない子も多いです。それは、外遊びが少なかったりするので、やっぱり小さい頃からもゲームをしたりとか、それこそスマホに子守をさせたりがあるので、やっぱり吉富委員も言われたのですが、親の意識が大事なかなと思うところです。
田之上委員	垂水小学校の運動会から報告いたします。曇りがちではありましたが、暑くもなく運動会日和でした。万国旗のはためく校庭で、かけっこやリレー、ダンスや集団演技など頑張る姿、団長を中心にまとまる姿、係の担当を頑張る姿などを見ることができ、いい運動会だったと思います。子どもたちがタブレットを見てダンスの練習をする宿題があったり、GIGAも有効活用されていました。春の開催で行事の重なりが少なかったのか、3月まで勤務されていた先生方がたくさんおいでくださっていて、子どもたちに声援を送ってくださり、子どもたちも先生方を見つけて、とても嬉しそうでした。 5月19日に肝属地区の市町村教育委員会連絡協議会に出席しました。総会の後に、錦江町と鹿屋市の事例発表がありました。錦江町は、児童数減少に伴う、学校再編に取り組んだことについて発表され、鹿屋市は教育大綱に沿って実施している、英語教育・国際理解教育と青少年育成活動の充実として、子ども会活性化に取り組んだ事例などが紹介されました。どちらも興味深いお話でした。 昨日は私も子どものSOS受けとめ方講演会を聞きました。ご自身も子育てをしてこられた経験を交えてお話を伺いながら、“そうなのよ”と思いながら聞かれた方も多かったのではないのでしょうか。今は仕事との両立であったり、子育ての相談や応援が受けにくい家庭も多く、大変かもしれませんが、社会的な支援体制も増えてきているので、ひとりで抱え込まずに、みんなが笑顔で子育ての時間を楽しめるといいなと思いました。私も児童クラブで、小学生と関わる中で、少しでも子どもたちや保護者さんの心に寄り添うことができればなと改めて思いました。
吉富委員	垂水小学校の運動会のことを述べさせてもらいます。新年度がスタートしまして、2か月が経ちましたけれども、各学校、大きな事故や問題もなく、スムーズにスタートが切れていると思います。委員会の先生方、学校の先生方に感謝するところです。 垂水小学校の運動会も開会式から応援席にしっかり座って、担任の先生の指示を新1年生がよく聞いて、張り切っている姿を見ました。3月までは何かあるとすぐべそをかいていた子どもたちが小学校にあがると、途端に、わずかの期間ではありますが、大きく成長したなと思いました。学校というのは本当、今さらながらですが、ありがたいなと思いました。1年生担任の先生も、大変張りのある声で、的確に指示を出されて、子どもたちも動いておりました。

	子ども一人ひとり、勝っても負けてもそれぞれの児童の思いに、先生方が個に応じて受けとめてあげて、児童生徒、学校が成長していく糧にしているのかなと感じます。勝った子には頑張ったね、負けた子にはいいのよってですね、そういう一人ひとりに応じて、その次のステップ成長の糧にしていくという、そこはやはり、教育がなせる業かなと思って見ておりました。すべての学校が行事や学習を通して、先生方の元で指導を受けて健やかに育っていることに感謝いたします。 垂水小学校の保護者からも、運動会の練習を、今、タブレットを使って、我が子が頑張っていますよという声も聞こえてまいりました。また、本番では、1年生がバトンを持たずに最後まで走り切ってしまっただけですね、そういうのもエピソードがあったのですが、大変ほほ笑ましく、最後まで大盛況のうちに運動会が終わったなということを知りました。ありがとうございました。 5月18日、垂水市市民館大ホールにおいて、令和7年度、生涯学習オープニングフェアが開催され、講師として参加をいたしました。1時間ほどの開催の中で、副市長の開会の挨拶、そして、昨年度の生涯学習の内容をスクリーンで映し出しての紹介、そして講師の紹介がありました。その後、受講生代表でドッジボール講座を受講する協和小学校の石堂さんの挨拶と内容が詰まったいい開校式でした。学習発表では、スクリーンでの発表や、市民館のロビーでの展示作品でも紹介していましたが、「初めて受講してこういうことに気づいた」「この講座は楽しかった」「もっと極めたい」などといった個々の受講生の声があったらと感じたところです。 5月19日、新城小学校の、校内研修でスケッチ大会に向けての絵画指導を行いました。有村校長先生からお話があり、今年度はぜひ新城小学校の先生たちにスケッチの絵画指導をしてほしいと声がかかり参加しました。内容は、低学年・中学年・高学年の発達段階に合わせた絵画指導、校内審査における絵画の見方、最後に実技指導といった順序で60分の時間を使って指導しました。発達段階における絵画指導は児童の行動範囲によって題材を決める。数年前までは、にわとりや動物、孔雀などを飼育していたのですが、最近はそういうものもなく、描く材料がなくなっていくことがちょっと心配です。低学年は学校内に材料を見つけ、高学年になるにつれて、校外に出て町の景色や働く人を題材にしていくことになると思います。構図や下絵の描き方については、主題をはっきり描く。何を描きたいのか、自分で決め、仕上げの彩色の仕方については、多くの色を使って描く。12色を用意したら、12色全部使ってみようなどと説明しました。実技指導では、三原則を使って、すべての色をつくろうとし、肌色や黄土色、茶色といった混色も作ってみる。この色遊び、混色づくりを、先生たちも楽しそうにしていました。 5月25日の垂水小学校の運動会ですが、運動会のスローガン「勇気100%、風のように走り、全力プレーでがんばろう」とあり、1年生から6年生、そして、お父さんやお母さんのはつらつしたプレーが、見る人にも元気を与えたようです。少ない種目の中でプレーする子どもたちの元気な姿がとても印象的でした。また、前日の雨がうそのように晴れあがった校庭の様子に、水たまりもなく、水引が早い運動場での運動会ができて本当によかったなと思ったところです。
葛迫委員	朝の立哨をしており、梅雨に入り、雨の中、児童生徒ほとんど、来なかったのですが、制服姿の女子学生が1人傘を差して歩いてきました。ぴんときて、お仕事ですかと尋ねたら、教育実習ですという返事でした。制服姿で学生さんなので

やっぱりと思って、ありがとうございます、頑張ってくださいと声をかけました。教員のなり手不足という現状から思わず出た言葉でした。大変だと思いますけど実習を通して、教師になりたいという思いを強く抱いてくれたらと願うことでした。

今週も雨模様です。これから秋までは、自然災害が心配な時期となります。この市民館も避難所です。職員は避難所が開くと、交代で、徹夜で避難所の担当として働いてもらうことになるので、なるべくそういう状況が起きなければいいなと思うところです。

5月21日に校長研修会があり、自身の経験をもとに、断行する勇気と撤退する勇気についてお話をいたしました。令和3年度、校長としての最後の年はコロナ禍の真っ只中でした。5月に計画していた2年生の修学旅行は、学校の中で感染者が発生したため、11月に延期をいたしました。2学期になりますと、いろんなスポーツ大会が少しずつ開かれて、特に体育館で行われた種目で、高校生の感染が広がって、それがまた兄弟姉妹にも広がってということで、11月の修学旅行も見送りました。学校生活を我慢し続けてきた子どもたちでしたので、何とか修学旅行に行かせたいと思いましたけれども、感染者が出たり落ち着いたり、繰り返しの毎日でした。2月は感染が落ち着いた状況がしばらく続いたので、3月初旬に、1泊2日の修学旅行を実施することを決断しました。2年生300人、体調不良者1人もいないことが前提です。当時はもう県内での修学旅行が一般的でしたが、私がうれしかったのは、感染の関係で引率を躊躇する教員もいるのですが、2年部の職員の方から、ずっと我慢してきた子どもたちに、いい思い出を作ってあげたいので、ぜひ県外にという提案をしてくれました。感染防止のために、屋外での活動をと職員とも話をしました。旅行当日の朝、感染者・発熱者1人もいないことを確認して出発しました。朝7時前に、吉野を出て、高速道路に乗り、2度のトイレ休憩を取りましたけれども、300人は大所帯でした。そして昼の12時頃、ハウステンボスに到着しました。男子の多くは、動物のぬいぐるみ帽子をかぶって、女子の多くは花のカチューシャをつけて、笑顔いっぱいでした。夕方までの5時間思いっきり楽しんだ後、熊本のホテルに移動して宿泊しました。翌日はグリーンランドです。

保護者から感謝の言葉をたくさんいただきました。しかし、今でも思うのですが、残念ながら、参加できなかった子どもたちが10人ほどいました。感染を恐れたり、保護者が医療関係者であったりすると、県外に出ることが、その後の仕事に、やっぱり、影響を与えるということが理由でした。

本日、お配りしました資料、私が投稿した最後の若い目です。掲載されてよかったなと思いながら。これが断行する勇気ということで話をしました。

撤退する勇気ですが、一方で再任用の2年目、特別支援学級担任として、大隅青少年自然の家での宿泊学習の引率をしました。前日に大雨が降って、影響を心配しましたが、鳴之尾牧場までの登山に出発しました。案の定でした。山道はぬかるみだけで、滑る斜面はうまく登れない。下から押す者、上から引っ張る者、みんな必死でした。牧場への到着、昼食時間は1時間以上遅れ、みんな疲れ果てていました。今考えても、けが人が出なかったことが、不思議なぐらいで実施すべきかどうか十分検討すべきだったと、今でも思っています。

断行する勇気と撤退する勇気。計画を前に変更する、撤退する勇気の方が難しいかもしれません。情報をなるべく広く収集し、想像力を広げて判断する、校長がもっと難しい、そして最も大事な仕事だというふうに、校長先生方にお伝えしたところでした。自然災害が何事もない、夏秋であればなと願っているところです。

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 7 閉 会	5月 13 日から6月9日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、6月 10 日から7月 11 日までの行事予定についてお知らせした。
---	--